2013 年 3 月発行

環境と再生可能エネルギーの旬なニュース

グリーンコミュニティ ニュースレター

Green Community NewsLetter

低炭素型まちづくり　森林保全　太陽光発電　小水力発電　バイオマス発電　風力発電　グリーンプロパティ

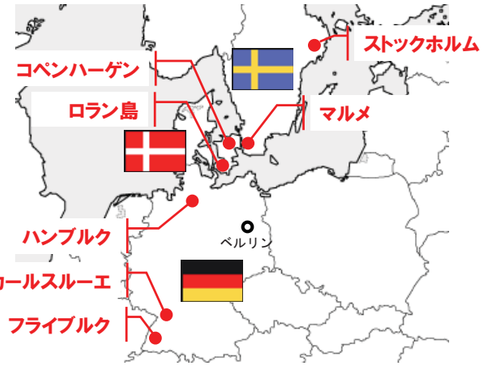
低炭素型まちづくり先進地域欧州にて
当社社員が調査した現地情報を配信中！

欧州の低炭素型まちづくり

～　ドイツ、デンマーク、スウェーデンの事例　～

2010 年 11 月に、環境先進国といわれるドイツ、北欧の主要都市において、低炭素型まちづくりの実態を調査した。自治体関係者を中心として各都市の取り組み状況をヒアリングするとともに、環境ジャーナリスト等からレクチャーを受けた。

今回、調査を実施した都市は以下の通りである。



訪問都市位置図

これらの都市では、「環境に良いから取り組む。でも、世間に広まるかどうか…」といった視点や出発点ではなく、便利で快適な仕組みをつくり、それを世論が受け入れるといったイメージだ。その仕組みの裏には、環境対策に貢献できるアイデアが隠されている。風道を考慮したエコタウンの設計、快適な公共交通の配置、ゴミの山をエネルギーの山に変えて市民発電事業をしている団体など。厳しい気候条件や歴史、民族性の違いがある中で、経済・福祉・文化等をキーワードに地域の活性化を目指しながら自治体間の競争をしている EU 圏内では、日本人が忘れたと言われる人間生活の豊かさがあるのではと感じられた。

一方、日常生活や休日の様子を観察していると、本当に環境先進国か？と疑う光景を目の当たりにしたことも事実である。駅や道路にはゴミが捨てられ、一部のエコタウンを除いては自動車の渋滞が目立つ。日本（人）のサービス、譲り合いやおもてなしの精神はすばらしい文化だということも、日本を離れることで実感できた。何事にも表裏があること、すなわち日本にある問題は諸外国にも当然あり、その逆もある。問題はその程度の差であると環境ジャーナリストに言われた言葉を改めて思い出した。視察を通じて、環境先進国と言われている国々やそこで生活している市民は、歴史、文化、習慣の違いはあるにせよ、生活する場の自然条件、社会条件に適した知恵を働かせて、活動を行っているということが鮮明に伝わった。

次回以降 8 回にわたり、環境先進都市の状況を報告すると同時に、現地関係者から直接聞いた話をコラムとしてレポートしたい。以下に、次号からレポートする都市と概要を記載する。

◇フライブルクの政策

（市の様々な低炭素対策）

フライブルク市は、1992 年に「環境首都コンテスト」で最高点を獲得したことで一躍有名になった。「ソーラーシティ」から「環境先進都市」、そして「グリーンシティ」へとスローガンを変化させ、現在も成長している。

フライブルク市エネルギー政策の 3 本柱

◇フライブルクのエコタウン

（新規開発地区と既存住宅地の再開発）

フライブルク市の代表的なエコタウンとして、住民参加によって整備されたヴォーバン地区と、行政主導によって整備されたリーゼルフェルト地区が有名である。

ヴォーバン地区（左）とリーゼルフェルト地区（右）

◇カールスルーエのまちづくり

（近距離交通システム、ゴミの山の再生）

カールスルーエ市は、トラムを中心とする優れた近距離交通システムが有名で、「カールスルーエモデル」として知られている。そのコンセプトは、「人が中心のまちづくり」である。これらの実態や、ゴミの山をエネルギーの山にさせた取組みは興味深い。

トラムで賑わう市内の様子

◇ハンブルクのまちづくり

（E モビリティと既存住宅地のエコ開発）

ハンブルク市は、2011 年に欧州環境首都賞を受賞した。適切な資金拠出と様々な対策を実施して、市は環境政策上の公約を達成している。野心的な目標として、CO2 排出量を 2020 年までに 40%、2050 年までに 80%削減することを定めている。

電気自動車充電スタンド（左）、防空壕跡地に太陽光発電パネル（中、右）

◇コペンハーゲンのまちづくり

（地形と気候を活かした取組み）

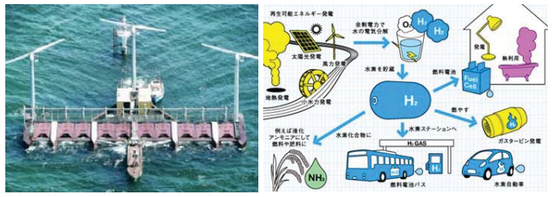
コペンハーゲン市は、1995 年から 10 年間で CO2 排出量を 25%削減している。これは市内の熱暖房の 98%を廃熱利用の地域暖房設備にしていることが大きい。また、地形が平らであることから自転車の普及が進んでおり、そのための様々な政策を実現させている。

自転車の普及が進むコペンハーゲン市内

◇ロランの低炭素型まちづくり

（自然エネルギー導入先進地域と環境教育）

ロラン島は、デンマーク国内で 4 番目に大きな島である。この島には、最先端の環境テクノロジーの巨大な実証施設があり、一時は 20%を上回る失業率が今では約 4%と環境関係の雇用も生まれている。デンマーク発祥の森の幼稚園とその教育方針には驚かされる。



波力と風力発電が同時にできる施設や R 水素コミュニティの実証実験

◇マルメのエコタウン

（新規開発地区と既存住宅地の再開発）

マルメ市は、スウェーデン 3 番目の都市で、現在は積極的な産業構造の転換を図りながら国際的競争力を高め、オアスン地域での経済成長にも寄与している。造船所跡地に新規開発した最新エコシティや、高齢者に優しいまちづくりを進めている住民参加型の地区がある。

ベストラハムネン地区　　アウグステンボリ地区

◇ストックホルムのまちづくり

（アテネオリンピック誘致活動後の変貌）

ストックホルム市は、様々な環境政策の実施が評価され、1997 年に「ヨーロッパ持続可能な都市賞」を受賞した。ハンマルビー・ショースタッド地区は、元々2004 年のアテネオリンピックの選手村として予定されていたエリアであるが、誘致失敗後に様々な取り組みを経て環境先進都市へ生まれ変わった。

ハンマルビー・ショースタッド地区の様子（左）、バキューム式ゴミ箱

国際航業株式会社
http://www.kkc.co.jp　　gcn@kk-grp.jp

発行：株式会社インフラ・イノベーション研究所
Copyright reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます
Japan Asia Group